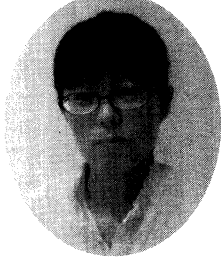


統一教会信者拉致監禁事件被害者に独占取材

続発する事件の真相と背景に迫る

「靈感商法」「合同結婚式」「勝共連合」などと、マスコミが統一教会を紹介する時には暗いマイナスのイメージがつきまとう。いや、統一教会イコール社会の暗部だと印象づけることが、今までのマスコミ内部の共産主義者たちの使命だったと言う方が、まさに的確なかもしれない。マスコミとすれば、統一教会信者が被害者となれば「嬉しくても記事にする」はずなのだが、何故かこの拉致監禁事件については一切報道しないようになっていた。取り決めや申し合わせがあった訳でもないのに、統一教会信者が拉致され監禁され「脱会署名」させられるという強行犯罪がニュースになっていない。そこで、小紙の出番である。



河本洋美さん(仮名)(写真)はスイカの名産地で知られる町で生まれ、約十年前に大阪に出てきた。特に変わったところもない、健康な女性である。それが突然、ある組織から洗脳された親族たちによって拉致監禁されたのである。

まず、彼女の親族たちを洗脳した組織について話そう。組織は全国ネットワークで、そこに関係する人物は相当数いるはずなのだが、判明しているのはごく一部のメンバーだけである。ネットなどでもこの組織は注目されているのだが、国会議員の有田芳生や弁護士山口廣など左翼の大物や、日本基督教団などプロテスタントの牧師が複数、抵抗する信者を拉致する強行係、客の財産などを調査する係などが実名で登場しているようだ。ここでは、洋美さん拉致監禁に直接関与していた者だけを登場させる。それは、名誉毀損と言われないように、違法行為や人権侵害を行なう者を名指しすることが公共の利益に適うと信じるからだ。

まず「保護説得」という役を演じるプロテスタントの牧師・高山正治。彼は日本基督教団に属しているが、洋美さんに対してはソフトな言葉遣いをしながらも、内容は恫喝的である。洋美さんは拉致監禁されていた二

て改宗させる」という宗教的な抗争事件ではなく、どうやら単純ビジネスの臭いがする。

では、洋美さんの親族は高山牧師たちの組織からどのようなセーリングを受けたのだろうか。

まず発端について、洋美さんが拉致監禁されている最中に親族から聞かされた内容だが、小紙が感じるのは、客の不安を煽って高額な商品売り付けの「靈感商法」を高山牧師たちの組織がやっているということだ。洋美さんによれば「叔母さんが大阪に居るのですが、私が統一教会信者だということをお母さんから聞いて、知り合いの牧師に相談したそうです。すると、統一教会信者を脱会させて改宗させるプロがいるからと高山牧師を紹介されたようです。すると高山牧師が私の両親の所にやってきて、二週間脱会させてやるから指示に従えと言われたそうです」ということ

から始まっている。洋美さんの親族は、高山牧師のセミナーに参加させられて長時間「説得」され、完全に洗脳されてから実働の計画が進められた。

父親が全ての保険を解約して資金を作らされ、指示されるままに家賃七万円のマンションを借りさせられ、その部屋を指示通りに改造してスタンバイとなったのである。

洋美さんが、親族の豹変や突然の拉致監禁にパニックになったところへ、高山牧師の恫喝的な圧力での説得工作が加わり、「もう逃げ場がない」と諦めの境地になったのも頷ける。

高山牧師たちの組織が拉致監禁をビジネス化するに当たり、相当練り上げたマニュアルを完成させていたと推測できる。そこには、高山牧師が「仲間」と称していた弁護士や大

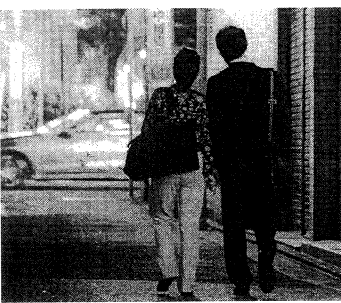
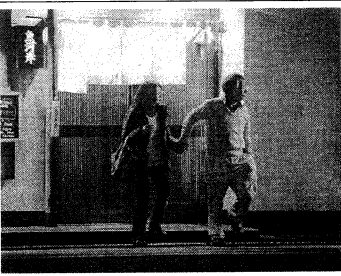
学教授の影が見え隠れしている。拉致が事件化して警察が介入しても言い逃れできるように、必ず親族が中心作業をするようにしてあり、

監禁が事件化しても良いように、二十四時間の監視役は親族にやらせている。つまり、牧師などは「補佐人」「補助人」という立場となり、万一件化した時にも「共犯」「教唆犯」ではなく「随犯」として親族に引き込まれた立場に逃げ込むのだ。巧妙な組織犯罪と言えるかもしれない。

洋美さんに、拉致監禁から逃げ切った後、家族と連絡できていたかどうかわかると、案の定「手紙も受け取ってもらえないし、電話も取ってもらえない」と悲しそうに語る。親族からすれば、娘にとんでもないことをしたと気づいたが、それは修復できない溝となってしまうのだ。

高山牧師たちの組織も、仕事が一段落して報酬を手に入れば「あとは野となれ山となれ」の心境だろう。たかがビジネスのワンシーンであり、

ネット「白い旅団」のすごい中身



統一教会の信者の家に営業をかけたプロテスタントの牧師に親を洗脳させる一方、どの程度の預金や財産があるのかを調べあげ、「子供を統一教会から取り戻さねば、あなたの子供は不幸になる」と客を集めている商売がある。「改宗屋」とか「脱会屋」と称する組織は、全国ネットで多くの業界の人間が関わっている。一世風靡したヤクザと株屋が組織した「ITベンチャー」のネットワークみないものである。金さえ儲ければ、中身は何でも良いのである。さて、この「改宗屋」の元締と見られているのが東京在住の「宮村峻」という男で、その相棒で「法務部長」

洋美さんの親族を精神的にフォロワーすることは高山牧師らの組織には責任のないことだろう。宗教対立を匂わせて、異教徒や異端を許さない運動だと錯覚させればビジネスは半分成功なのである。

国連憲章第一条三項には、人種・国籍・宗教・思想で差別や対立をしないようにと規定しているが、日本国憲法を持ち出すよりもプロテスタントの牧師には「反国連」のレッテルを貼る方がダメージになる。何しろ国連憲章を踏み越える牧師には、宗教活動そのものが許されないだろう。

統一教会の本部に問い合わせたところ、現在も年間十十五人が高山牧師らの組織によって拉致監禁されているとのこと。世間のイメージとは逆に、統一教会は被害者になっているのが現実である。

と見られているのが東京弁護士会の有名弁護士・山口廣だとされている。これはネットでも流されている「白い旅団」というページに詳細が出ているが、「ホンマかいな？」と思うほど彼等の乱脈ぶりは凄まじい。

彼等の商売の方法は、まるでヤクザの「詐欺商法の連鎖」である。まず統一教会の若い信者を見つけ、興信所のように身元調べをして、その若い信者の親の所に組織のメンバーであるキリスト教の牧師が脅しに乗り込むのだ。「あなたの子供が統一教会の信者になっているのを知っていますか。このままでは犯罪者となります。韓国に連れて行かれて帰ってこなくなりますよ」と脅し、「どうしたら良いのでしょうか」と親が泣きついていたら商売開始である。別のライオンで調べ上げた預金や財産などの「巻き上げられる金額」を設定して「これだけ支払えば、あなたの子供を統一教会から脱会させ改宗させてあげます」と契約するのだ。

次に、親を洗脳するためにキリスト教の牧師が複数で親族たちを取り囲み、長時間かけて「釈伏」するのである。

次に、親たちに統一教会信者の子供を呼び出させ、それを専門のメンバーが車で拉致し、あらかじめ用意した監禁用のマンションに連れ込む。そこで、脅したり泣き落としたりして脱会届に署名させて、組織の法務部の弁護士が受け取って公正証書に書いてしまう。それを統一教会に内容証明で送りつけて脱会完了として報酬金を巻き上げる。この金額は、客の資産レベルによって違う。当然のことだが、領収証など足のつくものは出さない。

脱会させた子供は、キリスト教会の信者にして登録し「改宗実績」としてリストに掲載する。そのリストは、次の営業の時に客に見せられるものだ。そして、脱会させた子供に「お前の知っている、統一教会の若い信者を紹介せよ」と強要し、その紹介させた信者の親が次の客になるのである。また弁護士が「お前が統一教会に献金した金額と日付を簡条書きしろ」と強制し、それを「献金取り戻し訴訟」として統一教会を訴え、裁判所から和解勧告があれば折り合いをつけ、それがまた収益となるシステムなのだ。

小紙は以前「改宗屋」「脱会屋」の問題は、統一教会とプロテスタント教団との対立問題なのか、あるいは統一教会の進めているスパイ防止法などとの関連で共産党と対立しているのかと思っていた。だが調べてみると、思想や宗教と無関係のところまで展開されている「商売」だということ実が推測できる。

ちなみに「白い旅団」のHPには、組織の幹部である宮村と山口弁護士が、それぞれ愛人(どこの誰だということまで特定してある)と一緒にいるところを激写したものが掲載されている。